

業 務 再 点 検 結 果 報 告

部署名	横浜植物防疫所川崎出張所
部署の業務内容	川崎港における輸出入植物の病害虫検査と諸外国からの病害虫侵入警戒調査など。

項 目			対応は 十分か	点 検 結 果 の 概 要
基本的 な視点	総論	消費者、生産者、事業者など多様な国民各層からみて、丁寧・誠実・親切な対応がなされるよう、部署内の業務において何らかの取組を行っているか。		挨拶を励行し、職場の風通しをよくして、柔軟な気持ちを持つことにより、来所者や電話照会者に硬直した慇懃無礼な対応にならないよう心がけている。本省Notesデータベースにある「消費者の部屋から」のように、植物防疫所に対する国民からの意見を植物防疫所内で共有できるシステムが必要と考える。
		国民各層からそれらの取組が適切であるとの評価を受けているか。	×	
	苦情、 要請等 への対 応	国民からの苦情、要請、内部告発、その他の情報提供について、対応が放置されたり、不誠実との批判を受けた事例があるか。		苦情や内部告発を受けたことはないが、要請については、出来る限り答えるようにしている。問い合わせ管理システムにより情報を共有化することが対応方法のルール化となると考える。本省Notesデータベースにある「消費者の部屋から」のように、植物防疫所に対する国民からの意見を植物防疫所内で共有できるシステムが必要と考える。
		苦情、要請、内部告発を受けた場合の対応の方法はルール化されているか。		
		そのルールについて、改善すべきとの声は寄せられているか。	×	
		対応がルール化されていない場合、国民の苦情、要請への対応が公平になされていると考えられるか。		
	政策の 目的・ 効果に 関する 説明	国民に政策目的や政策効果の説明を適切に行い、その結果を施策に適切に反映するため、何らかの取組を行っているか。		検査の取り扱いを変更する毎に、先方に出向くか、あるいは説明会を開催して取り扱い内容を懇切丁寧に説明し、意見交換を行っている。本省Notesデータベースにある「消費者の部屋から」のように、植物防疫所に対する国民からの意見を植物防疫所内で共有できるシステムが必要と考える。
		政策について国民との意見交換を適切に行い、その結果を施策に適切に反映するため、何らかの取組を行っているか。		
		国民各層からそれらの取組が適切であるとの評価を受けているか。	×	
		政策目的や政策効果の説明、意見交換の方法、その結果を施策に適切に反映する方法はルール化されているか。		
		そのルールについて、改善すべきとの声は寄せられているか。	×	
		ルール化されていない場合、国民全体の視点で見て、業務が公平に遂行されると考えられるか。		
		説明会や意見交換会において出された意見について、対応が放置されたり、不誠実との批判を受けた事例があるか。		
	業の振 興と消 費者の 利益	部署内の業務において、特定の分野、団体の指導、監督業務、もしくは特定の分野、団体と深く関係する予算、税制等に該当する事項があるか。	-	植物防疫は、農業生産の安全と助長を図ることを目的としていることから、その結果として食料自給率が上がることが国民の利益となると考える。しかし、輸出入食料業に携わっている人達からは、物流を阻害している一因と考えられていることも確かなので、ことある毎に植物防疫の重要性を説明し理解を得て来たが、物流を出来る限りスムーズに行えるよう常に配慮が必要である。
		業の振興と消費者の利益が一致しないという認識に立ち、日々業務を行っているか。		
		現在の所管の業界の状況からみて消費者と業界の利害が一致しないことがあるか。		

項 目			対応は 十分か	点 検 結 果 の 概 要
食の安全業務 についての点 検	総論	部署内の業務の中に、食の安全に関連する事項があるか。		消毒業務においては、常にくん蒸剤の残留基準を念頭に置き、消毒薬量、消毒時間及び消毒温度を遵守している。
	業務の 見直し	BSE発生後業務の見直しを行ったか。		諸外国から日々輸入される大量の青果物等の食料品を的確に検疫するよう法令を遵守すべく、それまで一部ではあるが他者に任せていた検査品の抽出に関し、全検査品目について植物防疫官立ち会いのもとに抽出を行うようになった。また、申請書の審査や検査抽出が適切に行われているか等、植物防疫官同士が相互にチェックし、その実施状況を定期的に点検する体制をとっている。さらに、動物検疫や厚生労働省の食品検査が必要な植物検査品に対しては、お互いに連絡をとりながら食の安全を確保するように取りはからっている。
		見直した業務について、その後、定期的な検証を行ったか。		
		部署内の業務は、国民の健康を守ることが何よりも重要であるという意識を持って行われているといえるか(産業振興サイドに偏っていないといえるか)。		
		部署内の業務は、国民の健康への悪影響発生 of 未然防止の観点から行われていると言えるか(問題・事故が発生した後の被害拡大防止に偏っていないか)。		
		その措置は科学的な知見や証拠に基づいて業務が行われているといえるか(根拠のない判断をしていないか)		
		フードチェーンの川下への影響を防ぐ観点からの措置はとられているか。		
		その措置は科学的な知見や証拠に基づいて業務が行われているか(根拠のない判断をしていないか)。		
		他部署の実施する食の安全業務について、おかしいと思う点があるか。		
		おかしいと思う点がある場合、他の部局に対し何らかの働きかけを行っているか。		
		第三者(マスコミ、消費者、他省庁等)から、点検対象とした食の安全業務と他の部署(省内、省外を問わず)が行う食の安全業務との連携ができていないと指摘されたことはあるか。		
	影響可能性の 確認	食の安全に関する業務でないとされているものの中で、食の安全に影響を及ぼす可能性のある業務は本当はないか。		問い合わせ管理システム等のデータベースを活用して、常に情報を共有化して見張っている。

	ご意見の内容		ご意見を踏まえた業務等の見直し・改善状況
農林水産省へお 寄せいただいた ご意見の業務へ の反映	特になし		